



トーマス・S・モンソン大管長

強く、また雄々しくあれ

わたしたち皆が世間に迎合しない勇氣，原則を守る勇氣を持ちましょう。

愛 する兄弟の皆さん、皆さんとともにこの場に集えるのは何とすばらしいことでしょうか。皆さんに話をするこの機会に天の助けがあるように祈ります。

何千もの神権者がこのカンファレンスセンターだけでなく、世界各地の礼拝堂やその他の場所に集まっています。わたしたちには互いに共通するものがあります。それは、神の神権を持つように委ねられているということです。

わたしたちは、歴史上注目に値する時代にこの地球に住んでいます。わたしたちは

ほぼ無限の機会に恵まれていますが、多くの課題にも直面しています。その幾つかはこの時代に特有なものです。

現代の世の中では、道徳的な価値がほとんどないがしろにされ、罪が目に見えるほどあらわになり、わたしたちは、細くて狭い道からそれさせようとする誘惑に囲まれています。道徳にかなったものを打ち壊す、この世の浅はかな理論と慣習にすり替えようとする圧力と狡猾な影響力にわたしたちは絶えず直面しています。

こうした多くの課題に直面しているため、わたしたちは、自らの行く末を左右す

る可能性のある決断を絶えず行う必要に迫られています。正しい決断をするためには勇氣が必要です。断るべきときに「いいえ」と言う勇氣、「はい」と言うのが適切などときには「はい」と言う勇氣、正しいと分かっていたら、それを行う勇氣が必要です。

今日の社会は、主が与えられた価値と原則から急速に離れる傾向にあるため、わたしたちはほぼ間違いなく、自分が信じていることを擁護するように求められるでしょう。わたしたちには、そうする勇氣があるでしょうか。

大管長会の一員として長い間奉仕したJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は次のように言っています。「信仰があると思っている人が、自分の信仰を全て表明することによって信仰心のない同僚にあざ笑われるかもしれないと思い、信仰を曲げたり弱めたり、信仰の価値を損ねたり、ひいては信仰を否定するふりさえすることがあります。そのような人は偽善者なのです。」¹ 誰もそのようなレッテルを貼られることを望んではいませんが、場合によっては、自分の信仰を表明することにためらいを感じることはないでしょうか。

もしわたしたちがふさわしい場所において、思いが善へ向かうような影響を受け、主の御霊がともにおられるような活動に参加するなら、正しいことを行う望みを持つうえで、自分自身の助けとなります。

少し前に、進学のために家を離れる息子に父親が与えた次の勧告について読んでおられるように感じたら、そこから出なさい!」皆さん一人一人に同じ助言をします。「自分がいるべきではない場所にいると感じたら、そこから出てください!」

わたしたちは皆、絶えず勇氣を持つ必要があります。日々の生活には勇氣が必要です。それは非常に重要なときだけではなく、わたしたちを取り巻く状況に対して決断したり対応したりするときに、より頻繁に必要となります。スコットランドの詩人で





あり小説家であったロバート・ルイス・ステューブソンは言っています。「日常の勇氣は、ほとんど人の目に留まることはないが、人からの励ましや称賛の言葉を受けなくても、その勇氣は高貴なものである。」²

勇氣は様々な形で現れます。クリスチャンで作家のチャールズ・スウィンドルはこう記しています。「勇氣は戦場に限られるものでもなければ、あるいは家に押し入れた泥棒を勇敢に取り押さえることだけに限られるものでもない。勇氣の本当の試金石は、もっと目立たないところにあるのだ。それは、誰も見ていなくても忠実さを保つ、……理解されなくても信念を貫くといった、内なる心の試しなのだ。」³ この言葉にわたしはさらにこう付け加えたいと思います。このような内なる勇氣とは、恐れを感じるときでも正しいことを行い、人からあざけられると分かっているにも信仰を擁護し、友人や社会的な地位を失う恐れがあるときでさえ信念を貫くことです。確固として正しいことを擁護するには、時として人から拒絶されたり、嫌われることも覚悟しなければなりません。

第二次世界大戦中、アメリカ合衆国の海

軍に従事していたとき、勇敢な行い、武勇の実例、勇氣の模範を見ました。18歳の水兵の静かな勇氣を決して忘れることができません。彼は末日聖徒ではありませんでしたが、祈ることを恐れず、250人の部隊の中でただ一人、ベッドの横にひざまずいて毎日祈りをささげていました。時には、信仰心のない隊員からあざけられることもありましたが、頭を垂れて神に祈りました。彼は決してたじろぎませんでした。勇氣を持っていたのです。

つい先ごろ、このような心の勇氣が明らかに欠けていると思われる例を耳にしました。友人の一人が、夫とともに自分のワードの靈的な聖餐会せいさんかいに出席し、信仰を高められたことについて話してくれました。アロン神権の祭司の職を持つ若い男性が、福音が真実であること、戒めを守ることの喜びについて話をしたとき、出席していた全員が心を打たれました。彼は白いシャツにネクタイを締めて、清潔できちんとした身なりあかしで壇上に立ち、心を込めて感動的な証を述べました。

その日、しばらくたってから、この夫婦が近所から離れた場所を車で走っている

と、つい数時間前に非常に靈的な話をしたこの同じ若い男性の姿を見ました。しかし、そのときの姿は、先ほどとはまったく異なっていました。うす汚れた服装で歩道を歩き、たばこを吸っていたのです。この夫婦は、非常に落胆し、悲しくなっただけでなく、聖餐会で非常に強い確信をもって証をした人が、その直後に、どうしてまったくの別人になるのか、理解することができませんでした。

兄弟の皆さん、皆さんはどこにいても、何をしていても、同じ人物ですか。天の御父がこうあってほしいと望んでおられる人物ですか。こうあるべきだと自分が思っている人物ですか。

末日聖徒であり、有名なアメリカNCAAのバスケットボール選手であるジャバリ・パーカーは、アメリカ全国版の雑誌のインタビューで、父親から受けた最高の助言は何かという質問についてこう答えました。「〔父は〕明るい所あかりにいても、暗い所くらにいても、まったく同じ人物でありなさいと言いました。」⁴ 兄弟の皆さん、これはわたしたち全てにとって大切な助言です。

聖文は、わたしたち一人一人が今日必要



とする勇気の模範に満ちています。預言者ダニエルは、祈ったら殺すと脅されたときでさえ、祈る勇気を示し、正しいと知っていることを擁護するために非常に大きな勇気を示しました。⁵

アビナダイも勇気ある人でした。彼は、真理を否定するよりもむしろ喜んで自分の命を差し出しました。⁶

ヒラマンに従った二千人の青年たちの模範には誰もが鼓舞されるでしょう。彼らは、純潔で清くあるように教えた親の教えに従うために必要な勇気について教え、その模範を示しました。⁷

おそらく、これらの聖文の話はモロナイの模範で締めくくることができるでしょう。モロナイも最後まで義を守る勇気を持っていました。⁸

預言者ジョセフ・スミスは、生涯を通じて、勇気の模範を数多く示しました。預言者ジョセフと他の兄弟たちがお互いに鎖につながれて——想像してください、お互いが鎖につながれているのです——、ミズーリ州リッチモントの裁判所の隣にある粗末な小屋に拘束されていたとき、最も劇的な出来事の一つが起きました。一緒に拘束されたパーリー・P・プラットは、あ

る夜のことにこう記しています。「わたしたちは真夜中過ぎまで、寝たふりをして横になっていた。何時間の間、番兵が口にする卑猥な冗談や聞くに耐えない汚い言葉、恐ろしい冒瀆の言葉、下品な話に耳も心も苦痛にさいなまれました。」

プラット長老はこう続けています。

「聞いているうちに、強い不快感と、憤りと、嫌悪感を覚えた。義憤がこみ上げてきて、立ち上がって番兵どもを叱責せざるにはいられなくなった。すぐ隣にはジョセフがいて、彼が目覚めているのを知っていたが、わたしはジョセフにも、他の誰にも、何も言わなかった。突然、ジョセフが立ち上がり、雷鳴のとどろきか、ライオンの雄叫びのような声で、わたしの覚えている限り次のように言った。

『黙れ。……イエス・キリストの御名によっておまえたちを叱責し、口をつぐむように命じる。もう一刻たりともそのような言葉を聞いてはられない。そのような話をやめよ。さもなければおまえたちかわたしのどちらかが、今すぐ死ぬことになるぞ。』

プラット長老が記しているように、ジョセフはものすごい威厳をもって、立ちました。彼は鎖につながれ、武器も持ってはいませんが、冷静で威厳にあふれていました。部屋の隅に後ずさりし縮こまったり、ジョセフの足元にうずくまったりしておびえる番兵をジョセフは見下ろしました。このどう見ても手に負えない男たちが赦しを請い、おとなしくなりました。⁹

勇気ある行いが常にこのような劇的な結果をもたらすわけではありませんが、心の平安と権利と真理を守ることができたという思いは常に得られるのです。

大衆受けする考え方という変わりやすい不安定な砂地に根を下ろすなら、信念を確固として保つことは不可能です。正しいと知っていることを強くしっかりと守り通すには、ダニエル、アビナダイ、モロナイ、そしてジョセフ・スミスのような勇気が必要です。彼らは、簡単なことではなく、正しい



いことを行う勇気を持っていました。

わたしたちは皆、恐れを感じたり、あざけりを受けたり、反対に遭ったりすることがあるでしょう。わたしたち皆が世間に迎合しない勇気、原則を守る勇気を持ちましょう。妥協せずに勇気を示す人に、神はほほえんでくださいます。勇気とは、雄々しく命を差し出すことだけではなく、確固として高潔に生きることでありと理解される時、勇気は力強い、魅力ある徳となるのです。わたしたちが正しい生活を送るために努力して前進するとき、間違いなく主からの助けを受け、主の言葉に慰めを見いだすでしょう。わたしは、ヨシュア記に記されている主の約束が大好きです。

「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。……

……強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない。おののいてはならない。」¹⁰

愛する兄弟の皆さん、確固とした勇気をもって、使徒パウロとともに宣言しましょう。「わたしは〔キリストの〕福音を恥としない。」¹¹そして、その同じ勇気をもって、パウロの勧告に従いましょう。「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」¹²

激しい紛争は起きてはまたやみませんが、人の魂を勝ち取る戦いには終わりはないのです。

主の御言葉はラッパの響きのように、皆さんに、わたしに、そして至る所にいる神権者に響き渡ります。「それゆえ、今や人

は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」¹³そうすれば、わたしたちは、使徒ペテロが述べたように、まさに「王国の神権者」¹⁴となり、目的において一つに結ばれ、高い所から力を授けられるのです。¹⁵

今晚一人一人が決意をしてこの部会を後にし、いにしへのヨブとともに、勇気をもって次のように言うことができますように。「わたしの息がわたしのうちにあ〔る〕…間、……わたしは……潔白を主張してやめない。」¹⁶そのとおりになりますようにへりくだって祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, "The Charted Course of the Church in Education" 改訂版 (1994年), 7
2. ロバート・ルイス・スティープンソン, in Hal Urban, *Choices That Changes Lives* (2006年), 122
3. チャールズ・スウィンドル, in Urban, *Choices That Changes Lives*, 122
4. ジャバリ・パーカー, "10 Questions," *Time*, 2014年3月17日, 76
5. ダニエル6章参照
6. モーサヤ11:20; 17:20 参照
7. アルマ53:20-21; 56章参照
8. モロナイ1-10章参照
9. *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編 (1938年), 210-211
10. ヨシュア1:5, 9
11. ローマ1:16
12. 1テモテ4:12
13. 教義と聖約107:99
14. 1ペテロ2:9 参照
15. 教義と聖約105:11 参照
16. ヨブ27:3, 5

